

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：色尾沼伏自治会

開催場所：初倉公民館

開催日時：平成 29 年 3 月 15 日（水）19 時 00 分～20 時 55 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、眞部危機管理部長、今村こども未来部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、小玉初倉公民館長】

内 容

① 今村自治会長あいさつ

・市長と膝を交えるこのような機会は少ない。市長からの市政報告の後に意見交換があるため、身の回りのことで市にお願いしたいこと、これからの市の将来について等、この機会を有効に活用していただきたいと思う。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・車座トークは平成 27 年 12 月から開始し、全 68 自治会を回る。本日 67 回目。3 月末までには全て回る。
・今後 8 年間の島田の設計図になる島田市第二次総合計画を策定している。また、中心市街地活性化計画、土地利用計画、国土強靱化計画等の今後 10 年を定める計画を策定している。平成 29 年度は計画をまとめるため、その前にこれからのまちづくり、市の考えを皆さんにお伝えしながら、皆さんからも地域の要望や提案、地域の特色等を聞かせていただき、策定する計画に活かしていくのが車座トークの目的。

■これからの行政のあり方について

・本日、この場に来る前に金谷と島田の企業懇話会で「おびサポ」の話をしてきた。平成 28 年 4 月、島田信用金庫本店の西側に島田市産業支援センター「おびサポ」を開設した。農業、サービス業等のあらゆる事業者の相談に応じ、専門家を紹介したり、金融機関と連携して融資の相談を受けたり、国県市の補助金の相談を受けたり、セミナーを開いている。
・最初は年間 1,200 件の相談を目標としていたが、平成 29 年 2 月末までの 10 ヶ月で 2,280 件の実績となった。国や県からも、おびサポの事業を島田型として認めていただいている。
・どのような方が利用しているのか調べたところ、市内の方が 6 割、市外の方が 4 割。近くは焼津市や藤枝市等、遠くは静岡市や浜松市、更に遠方の方も

来ている。

- ・相談者の職種は、製造業が一番多い、次がサービス業、3位が農業、以下建設業、起業家。この10ヵ月で市内に23件の新しい店を開業していただいた。
- ・こうしたことと同時に、最近島田市は行政らしからぬことを一生懸命にやっている。行政の殻を破らなければ、これからの時代、まちの特色を活かした尖がった元気のあるまちにできない。
- ・本日まで渋谷ロフトで島田市緑茶化計画と銘打ち、お茶の販売をしている。30代の女性が多く、評判が良くて売行きも伸びている。
- ・平成29年1月と2月、関東圏で一番大きなアピタ長津田店で島田の農産物（お茶、初倉のレタス、山芋、神座みかん、川根の椎茸等）を売った。最初はお茶の生産者も一緒に行き、売行きを心配したようだが手応えが良かった。急須が1つしか売れなかったと聞いた。急須で淹れるお茶が難しくなっている。市場調査をしていくと、緑茶も茶葉では難しい、お酒落な飲み方や淹れ方、内容量は少なくとも綺麗なパッケージに入った物が売れる等、良いお茶を作るだけでなく、売れるお茶にするための工夫がいると思う。
- ・アピタ長津田店には、今年6回行くため、リピーターになるお客様を捕まえたい。
- ・島田の逸品を15品選定して3年間は全面的に応援するため、東京等への売り込みや展示販売のお手伝いをしている。今週、アピタ島田店でもお披露目をしていた。昼のベツトは、島田の逸品になってから自社だけでは生産が間に合わないため、他社にも生産をお願いするほど売れていると聞いた。
- ・初倉の浅原工業が生産しているペン型の容器に入ったお茶が、渋谷ロフトに置いてもらえるようになったと聞いた。全国に広がる販売の手伝いをしたい。
- ・こうした中、力を入れているがまだ足りないと思っているのは、ICTを活用して生産性を上げることやセキュリティの向上等の相談件数が、おびサポに少ない。今年度はセミナーを実施していきたい。
- ・平成29年度、初倉地域を指定してICTで人を呼び込む事業を実施する。初倉の学校にタブレットを導入していく。初倉専任の外国人の教師を配置してコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・クラウドソーシングを市内に広げていくため、市内で説明会を開催している。
- ・今後5年間、藤枝市と組んでICTで人を呼び込む事業を実施するため大きな予算を付けている。
- ・4月には、島田用にカスタマイズされた人型ロボット（ペッパー）が市役所に導入され、案内業務をするようになる。
- ・時代が目まぐるしく変わり、10年前の行政は今の現実を予想できなかった。例えば待機児童の問題。5年前は、子どもが減少するため待機児童は減ると想定していた。保育需要も伸びないため、これ以上保育園を造る必要があるのかどうか、どこの行政も検討していた。実際は、母親が仕事をするようになり、幼稚園需要は減り保育需要が増え、国も市も予測ができていなかった。現在慌てて対策を立てている。
- ・島田市は平成30年4月までには待機児童ゼロを目指して力を入れている。平成29年度中に新保育園を向谷に造り、小規模保育園と合わせ0から2歳の定員82人を増やしていく。
- ・今から5年10年先はシステムが変わり、今までの自分たちの経験では測り知れない社会になると思う。車を個人が所有する時代から共有する時代になり、無くなる職業も出てくるかもしれない。

- ・島田も現在 10 万人の人口が、2040 年には約 8 万人となる統計が出ている。
- ・人口が減るということは、商売の圏域も小さくなる。今は、税金を納める労働人口が 6 割強だが、2040 年には 5 割となるため税収も減る。
- ・一方、高齢化は進んでおり、人口は減るが島田市の高齢化は 2040 年まで続いていく。
- ・医療・介護・福祉に関する予算（扶助費）が、一昨年までは一般会計予算の約 30% を占めていた。昨年は 33% になり、平成 29 年度は 34.5% になる予定。4.5% 増が 15 億円増に相当する。人口が減るため税収が減る。一方で社会保障費は増えていく時代。
- ・しっかりとした子育て環境や教育環境をつくり、若者に住んでもらう。若者は、住む所と働く所、子育てしやすい環境を選ぶと思う。
- ・島田市は、18 歳から 20 代中盤までの年代の人口が減り続けている。逆に子育て世代の人口が微増。六合と初倉地域は、子どもの数が増えている。六合は、学校を増設しなければならないほど問題が出てきている。
- ・こうしたところに、いかに付加価値を付けていくかで若者が入ってくるまちになる。初倉は、交通の利便性の優位性がある。あとはここに雇用をどのように作っていくかということ。初倉地域には、東中瀬工業団地を作りたいと思っているがなかなか難しい。地権者の同意をいただかなければならないが難しい状況。進出したい企業があるため、全部が難しくても一部からでも始めたい。
- ・初倉地域では、色尾大柳線、谷口中河線の事業を進めていく。
- ・予算が小さくなる中で、行政運営をすることは大変だと話をした。「島田市はお金が無い」と市民から言われるが、お金が無いわけではない。多くの予算を使っている自治体は、起債（借金）を重ねて色々なことをやっている。島田市もそれをやろうと思えばいくらでもできる。しかし、それで本当に良いのかと思う。
- ・病院、学校や市役所等、次世代も使っていくものは公平に負担していくものだと思うが、できるだけ若い世代に負担や借金を残さないまちづくりをすることも大事な視点だと思う。若者がこのまちに住み、自分達のやりたいことができないと困る。
- ・道路の話だが、国もお金が無くなっており、15 年前は道路予算 16 兆円を交付金として全国に配っていたが、現在約 5 兆円で 3 分の 1 になった。県の補助金も 3 分の 1 になった。
- ・平成 28 年度、島田市が道路整備等で国に要望した社会資本整備総合交付金は、52% しか付かなかった。もっと低い自治体もある。今造っている道路は少しずつでも進めていかないとならないため、取り掛かった道路は整備していくが、今年新規に整備しようと思ったところは、来年、再来年となる時代になった。
- ・子どもの数は 40 年前から減ってきているが、平均寿命が延び、全体としては人口が増えてきた時代に公共施設をたくさん造った。
- ・島田市は、市道 1,180 km、1,152 橋を所有している。これを 5 年に一度点検しなければならない時代になった。
- ・高度成長期にどんどん建てた公共施設は、島田市は 276 施設 663 棟を所有している。今後 40 年間、施設の維持管理更新をするために 2,515 億円が必要という試算がある。適正規模を考えていくと、40 年間で公共施設を 21% 削減する目標を立てた。更新すべきものは更新していくが、統廃合をして、今まで段々と広がってきたまちが、今度は集約していく時代になってきていることを皆さんに知ってもらいたいと思う。

- ・そのような時代に島田は大きな夢を掲げて事業を実施するが、それだけではなく、地域の課題、住みやすいまちをつくる時に、行政に任せておけば良い時代ではなくなってきた。地域にできることは行政と一緒にやる中で住みやすいまちをつくりたい。住み続けたいまち島田、訪れたいまち島田、選んでもらえるまち島田をつくっていかないとならない。
- ・市役所は究極のサービス業の会社。その会社の経営方針を職員に伝えてやっていく。その経営の4本柱をつくった。
- ・一つ目は、市民ファーストのまちづくり。市民ファーストを徹底していくこと。
- ・二つ目は、成果や効果を検証したうえでスクラップ&ビルドを徹底していく。新しいことを始めるときには、見直しを行い必要無いものは廃止していく。
- ・三つ目は、島田らしさの追求。島田の凄いところは何があるでしょうか。SL、蓬莱橋、大井川の伏流水、島田大祭、川根温泉は2016年全国温泉総選挙で3位となった。全国で初めて女性が参政権を行使したまちでもある。最近注目しているのは、島田は再生可能エネルギー（太陽光・水力・バイオマス・川根温泉が全国初の採掘権を取得したメタンガス発電等）の先進都市として全国に名だたるまちになれる。
- ・平成29年度末には、市内の年間電気使用量の37%を再生可能エネルギーで賄えるようになる。国は、2030年30%の目標を立てている。平成29年に37%の島田市は凄いこと。更に磨きをかけて、照明のLED化や企業設備を省エネの物に更新する等により、島田は40%、50%となることも夢ではない。そのような可能性があるまち。
- ・無いものを狙って何とかしようとするよりも、今島田が持っている強みを磨いて、もっと強くしていくことはこれからの戦略で大事なこと。その一つが再生可能エネルギー。
- ・新東名の金谷インター周辺84ヘクタールの農振除外をして、都市的土地利用ができるように手続きをしている。今月末には認可が出る目途が立った。
- ・新東名には多くのインターがあるが、どこも山を削った所が多く、平地で水が出る所は金谷だけ。島田の大きな優位性と捉え、水を使う産業、交通の結節点を活かした産業を誘致していきたい。国道473号線と新東名が交わる所に、JA大井川が賑わい交流拠点を作る。JA大井川、大井川鐵道、NEXCO中日本、島田市の4者が連携し、日本一の売り場面積を誇るマルシェ、大鐵の新駅、島田市は新東名下に奥大井に繋がる観光の拠点となるような無料駐車場を造る計画を持っている。
- ・初倉地域は、はばたき橋が出来て交通の利便性が高くなり、空港、東名、幹線道路が交差して市内で最も交通網の発達した場所となる。
- ・皆さん感じていないと思うが、大井川左岸側の人たちは、「市内で一番の大都会は初倉」と言う。井口周辺は店舗が多く、4車線道路が走っている。
- ・六合駅南口のトイレを改修した。今後数年かけてロータリーを改修する計画がある。
- ・谷口橋も島田大橋ができて渋滞が緩和した。東町御請線が完成して、六合駅周辺の渋滞も緩和されると見込んでいる。
- ・六合地域の踏切も拡幅の計画が出ており、JRとの交渉であるため時間は掛かるが計画に着手している。
- ・はばたき橋から西進した南原から牧之原市坂部に通じる空港アクセス道路も事業着手している。用地交渉や測量を行っている。昔はトンネルの計画であったが、現在は上を通る道となる。

■地域の市民協働の推進について

- ・この4年間、色々な種蒔きをしてきたが、その種蒔きの一つに市民協働がある。
- ・地域の課題を一緒に解決する方法を皆さんで考えてほしいとした中で、六合地域の道悦島応援隊が、1時間利用券500円、ゴミ出し1回150円のチケットを高齢者に購入してもらい、地元のボランティアが生活支援をする仕組みをつくった。各50円が事務費となり、ゴミ出しを1回手伝った人は100円が貰える。地域の助け合いの輪を広げて、安心して暮らし続けられるまちを作る取り組みが六合全体に広がろうとしている。
- ・湯日でも、放課後の子どもたちを初倉西部ふれあいセンターで見る事業を実施したり、ボランティアが湯日小学校から初倉南小学校の放課後児童クラブに送迎してくれている。
- ・地域によっては、看護師や資格を有する方を集めて地区の防災隊を作っているところもある。
- ・北部で話を進めているのは、ワゴン車・ガソリン代・保険・人件費を市が負担するので、地区内で路線を作ってくれないかお願いしている。料金を取ると違法となるため、料金を取らずに実施したい。行政が支援する形で地元で運行してもらおう。
- ・川根では、キャンプ場を作る予定があるが、運営を地元任せ、地元の中でお金が回る仕組みを作るような取り組みを始めている。
- ・これまでにない形ではあるが、それぞれの地区で出来ること、住民の相互扶助ということでもある。地域に活力を生み出してお金を回していくような取り組みもあると思う。こうしたことができるまちになると良いと思う。

■原子力災害の避難について

- ・本日の新聞に、浜岡原発の事故のときの避難先が決まった記事が出た。初倉は比較的原発に近いので、心配したり気にする方もいると思う。
- ・地元4市（御前崎市・牧之原市・菊川市・掛川市）を除いた31km圏内（UPZ）の11市町の人口は、合計約94万人。
- ・浜岡原発単独で事故が起こった場合や南海トラフ地震による複合災害で浜岡原発が事故を起こした場合の2つの想定で、平成30年度末までに広域避難計画を策定するように県から指示されている。
- ・現在策定しているのは御前崎市だけ。他市町は策定が難しいと言っている。浜岡原発単独で事故を起こした場合、島田市民は伊豆半島の15市町に避難することになっている。島田市の危機管理官が各市町に行き、収容施設を調べ、移動経路等も検討している。
- ・複合災害が起きた場合の避難先について、島田市は東京都を指定されている。しかし、東京都の何処かという点については話が進んでいない。
- ・皆さんに知っていただきたいのは、必ず逃げるとは限らないこと。島田が逃げなければならないのは、南風が吹いた時だけ。南風が吹くのは、年によって違いはあるが年平均8%。したがって、9割の場合は逃げなくてもよい。南風が吹く1割の場合に逃げなくてはならない。
- ・逃げなければならないのか、逃げなくてよいのかは、行政で判断して皆さんに連絡をする。県もホームページ等を通じて伝達をするとなっている。
- ・逃げなければならないと思えばパニックとなる。何が難しいかと言うと、皆さんを逃がす方法。基本的には自家用車となっている。原発に近い所から逃げることになっているため、御前崎市が逃げ、牧之原市が逃げ、吉田町が逃げてから島田市となる。実際には、そのような訳にはいかない。

- ・途中でスクリーニングを受けて、放射性物質が付いていないことが証明されないと避難所に入れられない。逃げる途中で全員が受けなければならない。
- ・現実的に、本当に皆さんを避難させられるのかどうか、大きな課題となっている。島田も広域避難計画を立てているが、色々と難しい課題がある。
- ・浜岡原発の再稼働に反対すること、それと同時に動ける計画になるように県も協力してくれなければならない。色々な手立てを考えてもらわないとならないと思う。
- ・この件について、まず市民第一。現実には皆さんの命を守れるかを一番大事な視点として考えて判断したいと思っている。

■みどり幼稚園跡地について

- ・市内において、一定の面積で活用の可能性が高い市有地は、みどり幼稚園跡地と旧国道1号線沿いのパチンコ屋跡地。
- ・パチンコ屋跡地は、地域の賑わいを生み出したり、居場所づくりに貢献できるように民間活力で何とかしたいと思っているが、みどり幼稚園跡地については具体的な計画は無い。
- ・幼稚園跡地は県道に面していない。県道と跡地の間に家庭菜園がある。現在は消防署の裏からしか入れない。跡地を賑わいの場とするならば、県道に繋がるようにしていかないと行かないが、使い道が決まらな行政は土地を購入することができない。
- ・道の駅という要望を聞いたことがある。誰が運営するのが一番の問題。JA大井川が運営してくれればありがたいが、JA大井川は金谷の賑わい交流拠点に力を入れていく。誰が主体になるのが解決できれば色々なことができると思う。
- ・初倉に農協の支店が3つあり、色々な方針も聞いているし、郵便局や地域の核となるものが集まってくると良いという考え方も持っている。しかし、郵便局も移転する考えは無いと聞いている。
- ・もう一つの課題は、地盤が悪いため幼稚園は移転した。この場所に高層建物は造れない。
- ・今は、初倉まつりの駐車場等に使い、地域の皆さんには草刈等でご協力をいただいている。良い場所であるため売るのではなく、皆さんの要望を聞きながら使い方を考えていきたいと思っている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	■金谷中学校跡地について 金中跡地の現状はどうなっているのか。	●一昨年、アイデアコンペを全国規模で実施して24作品が応募された。富士見の湯（温泉を掘ること）が一番だった。 昨年は、県の主催する有識者会議の中で、癒し・健康・食のコンセプトで賑わいの交流拠点という方針が出た。また、土地の使い方や進出する企業の有無等について全国規模の調査をして、現地見学会も実施した。手を

		<p>挙げた会社があり、有望なものが絞られつつある。平成 29 年度は事業コンペを行う。</p> <p>金中跡地は、隣接する試験場を買い増ししている。土地は島田市が、建物は県というのが最初の約束だった。平成 20 年に前知事と前市長が記者会見を行った。ところが、県も予算が無く、知事が替わり方針も変わった。</p> <p>このまま残しておける土地ではない。敷地を広げるために国の補助金を受けて整備をしたため、整備をしなければ補助金を返還しなければならない。</p> <p>様々な制約がある中で、4 年前から動き始めた。平成 20 年から時間が経っているが、皆さんのご理解がいただけるような民間企業に手を挙げていただきたいと思っている。広大な土地であるため、どのように使うのかについては、もう少しお時間をいただきたい。民間の提案を皆さんにご披露できるときを待っていただきたいと思う。</p> <p>本日、金中跡地近くの牧之原公園がリニューアルオープンした。トイレやベンチが新しく、展望台も広くなり、日本夜景遺産に選ばれた公園に相応しくなった。</p>
2-1	<p>■最終処分場について</p> <p>ゴミの問題は終了しているのか。自然公園等の計画があるのか。阪本地域を含めて開発計画に繋げてもらいたい。</p>	<p>●平成 29 年 3 月 31 日で、最終処分場に熔融飛灰を置くことを終了する。</p> <p>4 月以降は、民間業者と契約して処分してもらおう。当面の間は、自前の最終処分場は無い。外に出すと費用が高くなるのが懸念されるが、自前で処理するより安い。焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町は外出しで処理している。島田市は、自前の最終処分場を持っていたが、当面の間は外に出す。適地があれば、自前の最終処分場を造りたいと思っている。</p> <p>震災ガレキを受け入れたことが発端であり、地元の説明が無い中で、急にその話が出てきた。風評被害等で地域の方が苦しんだ。</p> <p>埋めた所を全て掘り下げて放射線量を測った。結果は、島田市内から出る一般ゴミと同等またはそれ以下であった。震災ガレキは、放射線を浴びたガレキではなかったと思う。それでも心配な方もいるため、埋めた場所</p>

		<p>全体を放射線を防ぐゼオライトシートで囲った。</p> <p>平成 27 年に裁判で島田市が敗訴して、覆土後に土地を返還するように判決が出た。反対地権者の皆さんに、使い続けられないか話し合いをさせていただいた。ご理解をいただいた方もいたが、全員の承諾を得られなかった。今の最終処分場は、平成 29 年 3 月末で県許認可の期限となるが、延長するためには地権者全員の承諾が条件だった。</p> <p>平成 28 年度中に 1 万トンの覆土を入れている。残り 2 万トンの覆土を入れる予定。今後 4, 5 年、排水の水質調査をして、問題が無いことが確認できたところで県が閉鎖の許可を出す。したがって、まだ数年は、市が土地を借りて管理をしていく。</p> <p>今後どのように使うのかについては、地元から公園等の要望をいただいているが、今は閉鎖をしっかりすることを第一として、その後、地権者がどのように考えるのか。同意がないとできない。</p>
<p>2-2</p>	<p>■時代は変っている。浜岡のピオトープも、元は同じような問題があった。その気になればできると思った。蓬莱橋周辺整備計画と含めて動いているのかと思った。</p>	<p>●最終処分場は、まずは閉鎖することを第一としている。閉鎖後にどうするのかは、皆さんの意見を聞きながらと思っている。</p>
<p>3</p>	<p>■市民会館の建設について</p> <p>プラザおおりと市民会館の稼働率はどの程度だったのか。その結果によっては、近隣市町と合同で良い建物を造る考え方もある。利用率が悪いのに、厳しい財政の中、大きな予算を使うことはどうなのかと思う。</p>	<p>●市民会館跡地は、舗装された駐車場となった。薄い（簡易）舗装として、次の建設に備えている。</p> <p>市役所周辺（市庁舎、市民会館跡地、プラザおおり、職員駐車場、中央小公園）34,000 m²の土地の整備検討委員会を 1 月に設置した。</p> <p>新病院の建設が大きな事業として控え、オリンピックと同時期の建設であるため資材や人件費の高騰が心配された。しかし、当初予算約 240 億円で収まる目途が立った。今月末には、基本設計の結果や概算の建設費用の公表が行われる予定。新病院建設の目途が立ってきたため、市役所も考えていくこととした。</p> <p>市役所が築 54 年、プラザおおりも築 35 年が経過している。おおりは、手入れをしていけば 2, 30 年は使える。市民会館は、耐震性に問題があ</p>

		<p>り取り壊した。</p> <p>閉館前5年間の平均稼働率は、ホールが年間約30日、練習日等を含めて50日だった。このような状況であり、必要性も含めて考えてきたが、プラザおおりは舞台が狭いことで不便なところがあり、イス等も傷んでいる。おおりをどのようにするのか、市民会館の機能を広域としていくのか、再生していくのか、併せて検討していきたい。プラザおおりは、予約が取れないほど使われており、こうした施設は必要と思っている。</p> <p>建て方も、今までのように市役所は市役所単独という考え方ではなく、市役所と他機能が一緒でも良い。市役所上層をマンションとして、その販売額で建物を建てても良い。色々な考え方があり、これをPFIと言うが、平成29年度は国土交通省の補助を受けてPFIの研究をしていく。早くに結果を出したい。平成32年度末までに建設できれば、合併特例債が利用できる。合併特例債以上の有利なものが無いため、建設時期が遅くなると市が負担する分が増えていく。今年秋頃には方向性を出したい。平成30年度から始まる総合計画に、この案件を載せたいと思っているため、今年中に素案を作りたい。</p>
4	<p>■ラウンドアバウトについて</p> <p>初倉にラウンドアバウト（信号機の無い環状交差点）ができる。焼津市に視察に行ったが、車を停める所が無い。島田市に造るとき、視察の人が車を止められる場所が必要。</p>	<p>●色尾大柳線と谷口中河線の交差部がラウンドアバウトとなる。直径31mの円状になると聞いている。全国的にもまだ少ない。数年以内に整備されるが、駐車場のことまでは考えていなかった。</p>
5	<p>■市民球場について</p> <p>市民球場（野球場）について、どのように考えているのか。</p>	<p>●野球場は、耐震化工事やベンチの交換等、数年かけてリニューアル工事を実施している。建設から3,40年が経過しており、大規模改修をしていないためシャワールームや更衣室等の設備が古くなっている。球場の芝はしっかり管理されている。両翼が約90mしかないが、今の球場は100mが必要であるため、球場を広げられないか検討している。</p> <p>島田は、横井運動場公園の中に色々な施設があり、他市に無い広大な場所であるため、この場所を整備することでスポーツの拠点にしたい。順次</p>

<p>6</p>	<p>■医師の確保について</p> <p>病院は、医師がいないと成り立たない。親族に研修医がいる人が色尾地区に住んでいる。医師の確保をしっかりとやっていただきたい。</p>	<p>修繕をしており、今後も引き続き改修をしていく。</p> <p>●病院管理者が一番欲しい情報は、市内で医大に通っている人の情報。学校に連絡をしても教えてくれない。市民の皆さんから情報を教えてほしい。</p> <p>立派な病院の建物が出来ても、医師がいなければ病院の経営が成り立たない。京都大学系と言われていた島田市民病院だが、大学から「継続的な支援は難しい」と言われている。昔は、医局制度により教授が医師の派遣先を決めていた。今の研修医は自分で研修先を決めるため、大都市圏に集中して、地方に行く先生が減っている。京都大学の医師も関西圏から出ない。</p> <p>そうした中、島田市は浜松医大との連携を深めている。定期的に学長のところに伺い、医療情報や島田市民病院の経営等について話をしている。</p> <p>平成29年4月、浜松医大から副院長が着任する。既に浜松医大からの副院長が1人いるので、浜松医大から来てくれる副院長が2人になる。また、麻酔系の医師で、藤枝市民病院の副院長だった方が若手の医師を連れて島田市民病院に移ってくれた。色々な形で成果が出てきたと思う。</p> <p>浜松医大は、7年前から県内の学生を優先的に採っている。今年あたりから、県内に留まる浜松医大卒の医師が多くなると学長から聞いている。そうした医師が島田を選んでくれるように、有利な条件を整えていきたい。</p>
<p>7-1</p>	<p>■教員の負担軽減について</p> <p>学校と付き合いがあるが、先生方が過重労働だと心配している。</p> <p>子どもが登校する7時過ぎに出勤し、20時過ぎに先生方が残っている姿を見かける。帰宅しても直に翌日の出勤となってしまう。事務的な軽減措置等を取ることで労働時間の軽減ができないか。</p>	<p>●子どもたちが下校してから事務仕事をする先生もおり、遅くまで働いている先生は多い。先生の勤務時間は、夏休み等にまとめて休んでいただくことで、年間平均して一般の勤務時間となるように調整をしている。普段は、普通の人より勤務時間が長い、夏休み等に調整をしている。</p> <p>小学校の一人の先生が受け持つ子どもの人数は、県内35市町で島田市は8番目に少ない。島田市単独で学校支援員71人を現場に置いている。正規職員だけでなく、支援員を多く配置しており、昨年16位が今回8位になった。島田市の小学校教諭一人当たり見ている子どもの数は、平均15.6人。事務の軽減として、志太3市で先生が作成する文書の様式を統一した。</p>

		先生がどの市に勤めても、同じ様式で作成することで少し軽減ができると思う。更なる事務の軽減は課題だと思う。
7-2	<p>■アンケートをまとめた資料等が膨大なものだった。先生がまとめてくれたことに敬意を表すが、時間が掛かったと思う。</p>	<p>●事務の見直しをしなければならないが、地元の協力や保護者の協力がある。今回、お褒めいただいたご意見は教育委員会に伝えていく。</p>
8	<p>■保育園、幼稚園、こども園の職員確保について</p> <p>平成 29 年度、島田市は幼稚園から認定こども園に移行する予算を3園分で約5億円計上している。</p> <p>先ほど医師不足の話があったが、幼稚園や保育園も同じように職員がいなくて探している。こども園に勤めるためには、幼稚園教諭と保育士資格の両方が必要。両方の資格を持つ人が見つからない。ある保育園で、子どもは大勢入園してくれるが、先生がいなくて困っていた。</p> <p>教育の場合、教育委員会で講師を登録している。民間の保育園や幼稚園が困っているため、職員を確保するための手立てを応援してほしい。こども園に移行しても職員が確保できないと聞いている。</p>	<p>●特に0歳児3人に1人の保育士が必要。この保育士の数が賄えるかどうか心配される。平成 29 年 10 月開園の保育園も必要な保育士数が確保できることで認可がされる。</p> <p>保育士が不足する中、保育園は定員の 120%まで預かれるため、どの保育園も大変。幼稚園が認定こども園となると、幼稚園教諭の資格は持っているが保育士の資格を持っていないため、残れない先生が出てくる課題がある。保育士の資格を持つ人は多いが、一度退職して家庭に入られた方もいる。再就労するにはハードルが高い。ハードルの高いところを、もう一度研修をする等に対して市が補助金を出せないか考えている。</p> <p>大都市圏も保育士不足で色々対策をしているが、例えば保育士の給与が安いことが言われている。調べた限りでは、保育士は、就職するときは民間の方が高い。10年経つと公立の保育士の方が高い。民間の保育士は、10年経つと給与が増えなくなると分析している。続ける人が少ない大きな理由になっていると分析している。公立並みに増やす補助は難しい。国の支援が必要と思っている。</p> <p>関東で保育士の奪い合いになっている。ある市が保育士に対して、来てくれば給与5万円増すると言ったところ、近隣から保育士が集まった。しかし、近隣市が7万円増するとしたところ、そちらに流れてしまった。給与の上乗せだけでは質の良い保育士を継続的に確保することが難しい。</p> <p>家賃の補助をしている自治体もある。外から来る人は補助を受け、今まで働いている人が補助を受けられない公平性の問題がある。どのような支援ができるのか担当課も考えている。資格があっても働いていない方に就労してもらうための準備金や研修費が検討できるのではないかなと思う。</p>

9	<p>■地域団体と学校との連携について</p> <p>商工会青年部が、ジュニアエコノミーカレッジの文部科学大臣賞を受賞した。大変良い事業で、ありがたいことに初倉まつりの場所でやってくれている。これからの教育の場に、地域の団体が計画している育成の事業が学校に入っていけると、本当に生きて働く力が子どもの中に付いてくる。市が間に入って連携をしてほしい。</p>	<p>●文部科学大臣賞は、10年20年と活動をしていないと受賞できないが、彼らは4年目で受賞した。受賞できたことは、彼らの活動が高く評価されたことだと思う。彼らの活動を頼もしく思うし、ジュニエコが商工会青年部の顔になってきている。同時に、事業を通して青年部が成長している。</p> <p>商工会議所の青年部は、高校に入り、企業家としての研修を継続して実施している。</p> <p>先ほど4つの経営方針の話をしたが、自分の役割が3つあると思っている。</p> <p>一つ目は人材育成、世代交代が必要だと思う。60歳以上の方々が熱心に活動している。しかし、10年20年先のことを思うと、今の30代40代の人が育たないとならない。この30代40代の人たちにまちづくりに関心を持ってもらい、行政とパートナーシップを取って活動できる人材の育成をしていかなければならない。島田の最大の課題だと思う。行政も企業も、何をやるにも人が命。他所の成功事例を参考に、島田で同じことをやろうと思ってもできない。他所には、それを実行できる人材がいたからできた。逆に、島田にも他所にできないことができる人がいる。その人たちの実力を伸ばしていかないとならないと思っている。人材育成、世代交代は自分の使命の一つと思っている。</p> <p>二つ目は対立軸を生まない行政経営をしたい。島田市は一つにならないと外に向けて力を発揮できない。</p> <p>三つ目は市役所の改革。組織改革は、市民向けの部署と内側の行政管理部門と分かれた経営をしている。職員の意識も変ってきたと思う。苦情をいただくことはあるが、昔に比べれば変わったと思う。</p> <p>皆さんが自分達の発想を言える組織にすること。これを自分の役割としてこの三つについてやってきた。その中の一つが人材育成なので繋げていきたい。行政も橋渡し役としてやれるようにしているし、行政がやる審議会や委員会も、4割から6割を40代までの若者を入れている。組織も変っ</p>
---	--	---

<p>10</p>	<p>■職員の意識改革について</p> <p>市長が仕事始めに、「柔軟な発想と前例に囚われない行動力を持ち、尖がったアイデアを模索してほしい」と職員に語りかけていた。市職員の皆さんに尖ったアイデアを出して、新しい発想で市を盛り上げてほしい。</p> <p>「出る杭は打たれる」と言われるが、逆に「出ない杭は腐る」。</p>	<p>てきている。</p> <p>●正月明けの訓示で言ったこと。毎年、訓示を書く時期になると苦しみが多かった。結局、自分は何をやりたいのか、どのようなまちをつくりたいのか面と向わなければならない。どのように伝えるのかという苦しみ。1年目、2年目、3年目も苦しみの中であった。4年目に自分の中に光が見えた気がした。自分の役割というもの、次の世代に繋いでいくまでの間に島田を手直しして、市民に信頼してもらえるまちをつくることと、島田の体力つけていくこと。平成29年度は、過去最高の市民税の増収が見込まれている。こうしたことを地道に重ねながら、次の世代を育て、パトタッチしていかないと島田は力を発揮できない。若者が伸びてくるように人材育成をやっていきたいと思っている。</p>
<p>11</p>	<p>■高齢者施設の設置について</p> <p>介護認定が変わり、在宅介護に伴う介護離職の話聞く。施設は増えているが、介護認定によって入りたくても入れない人がおり、空いている施設が多い。施設は申請すれば際限なく出来るのか。集約して上手く入れるような施策ができないのか。</p> <p>入所判定の委員をしているが、内容を見ると可哀相な人もいる。国の方針だと思うが、国に要望や市として対策ができれば。高齢者が多いので、上手く利用できるような方策ができればありがたい。</p>	<p>●国は、2025年を目指して施設（病院）から在宅へという流れをつくっている。国も財政難で、毎年1兆円ずつ医療費が増え借金が膨らんでいる。今は病院で看取る方が多いが、看取りも含めて在宅へという流れ。何かあれば入院してもらおうが、回復すれば在宅へということ。在宅で看るには、支援する人がいないとできない。介護保険ができた10数年前は、施設に親をあずけることに抵抗があった。今は施設利用が当たり前になった。この流れを在宅に戻すことは大変なこと。特別養護老人ホームは、施設に住所を移すため在宅として扱われる。</p> <p>病院の入院日数は、市民病院が平均14日だが、国の規定では9日くらいに短縮し、循環を良くしていこうということ。病院の病床数は、志太榛原医療協議会で決められている。病院が病床数を増やすには審議してもらわなければならない。余っている病床があれば許可してもらえない。老人施設の定員も福祉計画で決まっているため、無闇に造ることはできない。金谷地域に急激に老人施設ができています。</p> <p>首相が介護離職ゼロを目指しているが、現実には難しい。子どもの保育園があるが、高齢者の託老所も発想の中で既に出てきている。ある企</p>

<p>12</p>	<p>■公民館の職員配置について</p> <p>平成 28 年度から、六合公民館と初倉公民館の館長が行政から来た。市職員の皆さんが、現場と地域と直結する仕事ということで一番重要だと思う。館長を大事にさせていただき、地域との架け橋になることが狙いだと思う。</p>	<p>業からは、行政の支援があれば運営したいと意見も出ている。</p> <p>●ご指摘のとおり目的を持って職員を派遣した。公民館は、生涯学習、地域活動や貸館の場所であり、行政と地域が直結する場所として中々生きてこなかった。地域の情報の拠点、人の交流の拠点、地域と行政が直結する場所として正規の職員を置きたいという想いが4年前からあった。現実には難しいところがあり、平成 28 年度から形になった。</p> <p>地域の皆さんに育てていただき、ネットワークができれば職員の一生の財産となる。地域と行政の関係をしっかり作っていききたいというのが今回の趣旨。これが成功すれば、他の公民館にも置きたいと思っている。皆さんには、職員を育てていただいていると思っている、職員に初倉のことを教えてほしい。市役所まで行かなくとも、職員に相談をしていただければ対応させていただきます。</p>
<p>13</p>	<p>■道路修繕について</p> <p>道路の凹凸等について、すぐやる係に連絡をすれば直に対応してくれる。効率的に言うなら、自治会や町内会の申請で動くのではなく、地域を定期的に巡回してもらって、一目でわかる場所は、申請無しですぐやる係の方から対応してほしい。申請に応じて順次対応するのではなく、巡回して月にまとめて対応してくれれば経費削減になるのではないかな。もしできるならやってほしい。</p>	<p>●毎週パトロールは実施している。大きな異常は直に気が付くが、土砂災害等が起こりやすい場所等を含めて、毎週パトロールをしている。川根地域等の遠方は、まとまって週 1 回グループを組んで補修に行く等の効率性を持って対応している。また、緊急の要望もたくさん来るため、それぞれ対応している。</p> <p>平成 29 年 4 月以降も、すぐやる課として皆さんの要望に沿えるように対応していく。自治会からの申請だけでなく、写真等を撮ってメールで送っていただければ対応するため、協力をいただけるとありがたい。</p> <p>異業種の企業と連携協定を結んでいるが、郵便局も色々な仕事に着手している。老人の見守り等もやっているが、道路の破損箇所を連絡していただければありがたい。そのような連携は今後進めていくと思う。</p> <p>郵便局も年賀状のニーズが減り、生き残りをかけて次の事業に進出しようとしている。例えば、月 1 回、田舎の両親宅を訪問して聞き取りを行い、都会に住む子どもに連絡するサービスを提案された。色々な業種が新しい事業を売り込みにくる。郵便局は、このネットワークを使うと、色々なこ</p>

とができる。例えば、高齢化が進み隣組での文書配布が困難となったとき、郵便局にやってもらう。時代の流れとともに行政の仕事も役割も変わってくる。市も柔軟な発想を持って市政を運営していきたいと思うので、地域の皆さんにも島田の状況や島田は必ず良くなっていき、変っていくことを確信していただければありがたい。

最後に、「藤枝は駅前が変わっていく、若者が増えていくが島田市はどうなんだ」と言われる。数十年前、お茶の景気が良かったとき、皆さん農振を掛けてほしかった。それにより農地整備や水路整備ができた、お茶でもっと稼いだ。その頃、焼津市は漁業で景気が良かった。島田市はお茶で景気が良かった。一方、藤枝市はどうだったか。時代はそれぞれの浮き沈みがあると思う。島田市は農業が良かった時代に農振を掛けてきた。今度はそれを外して都市的土地利用ができないことが障害になっている。これは、少し長い期間で見れば、どこのまちにも浮き沈みがある。新たな形のまちをつくっていく取っ掛かりが今だと思っている。皆さんに信頼してもらるように、まちづくりを進めていきたいと思っている。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

